

中学生連載企画 私たちのふるさと松山学 No.30

大真面目?! 正岡子規の幼少期

小学生時代

子規は6歳のころに、末広学校(今の法龍寺(柳井町三丁目))にあった)に通いました。そして8歳の年に、勝山学校(今の番町小学校)に入りました。また塾にも通い、そこで漢文などを習っていました。このころの子規は、野外で遊ぶことより、本を読んだり、絵を描いたりすることなどを好み、七夕などの行事を大切に、おとなしい性格の少年でした。

中学生時代

子規は13歳の年に、松山中学校に入学しました。そこで「同親会」という漢詩を作る会をつくり、その中で特に仲の良かった友達4人と「五友



木村さんの描いたホトトギスの絵

東中学校

偉人の秘密大公開

子規・漱石・秋山兄弟・加藤嘉明

私たちは、総合的な学習の時間に地域の学習をしています。校区周辺をグループ別に訪ねて調べてみると、昔、この地域に暮らしていた偉人たちのことがいろいろと分かりました。

雑誌」というそれぞれの作った漢詩を載せた雑誌を作りました。



子規の銅像(子規堂)

子規がなぜ俳句に興味を持ったか

子規が俳句に興味を持ったのは18歳のころで、偶然借りた本を読み、その面白さを知って最初は何となく俳句を作っていました。最初は、ほとんど熱中するようになりませんでした。

ユニークな子規のペンネーム

皆さんは「子規」というペンネームの由来を知っていますか。「子規」はホ

トトギスとも読みます。ホトトギスは口の中が赤いので、そのホトトギスと血を吐いてしまった自分を重ねて「子規」にしたそうです。他にもユーモアにあふれたペンネームに、「面読意」「狂歌連達摩」「常規凡夫」「野球」「秋の幽霊」などがあります。

ベースボールに夢中

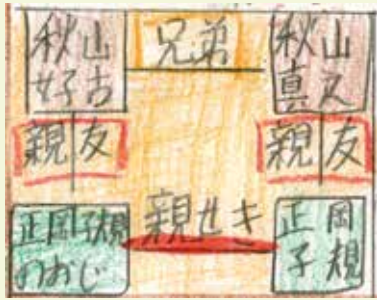
子規はベースボールに夢中になり、ベースボールの短歌や俳句もたくさん作りました。後に新聞記者になりベースボールを広めました。

子規と漱石

東京から帰ってきた子規は、松山で英語教師をしていた親友・夏目漱石と愚陀仏庵で52日間を過ごしました。愚陀仏庵では、子規に俳句を教えるもらおうと、たくさんの人があつて来ました。そこで新しい俳句について、考えを広めました。また漱石や句会仲間とお寺や温泉に行き、そこで作った俳句などをまとめた「散策集」という冊子を作りました。

秋山家と正岡家のつながり

秋山好古と正岡子規のおじは仲が良く、弟・真之は子規と仲が良く、両家には深いつながりがありました。子規と真之は東京で同じ下宿に同居したり、勉強を競い合ったりしたそうです。



秋山・正岡家の関係図(中野さん作)

秋山好古・真之

秋山兄弟の生まれた家は松山市歩行町にありました。今の「ロープウェイ街」の近くです。東中学校から近く、通学時などに通る人もいると思います。ぜひ皆さんも秋山兄弟の生誕地を見に行ってみてください。

加藤嘉明が築いた松山城

築城のからくり

松山のシンボル、松山城。さまざまなかからくりがあります。

連立式天守と小天守・櫓を四方に配置し、渡櫓(長屋形式の櫓)でつなぐ形式のこと。厳重な防備手法で、天守攻防の究極の姿であるともいわれています。

階段天守の階段は非常に急傾斜になっていて、傾斜は55度。なるべく床面積を広くし、攻められにくい階段を作ったと考えられています。

城を守るすごい仕組み

城の防備を固める上で最も重要な意味合いを持つのが筒井門と隠門



です。これは侵入者の注意を筒井門に向けさせ、そこを破ろうとする敵を隠門から打ち出で、背後から襲う戦略とみられています。これはすごい戦略だと思いました。

石垣の謎

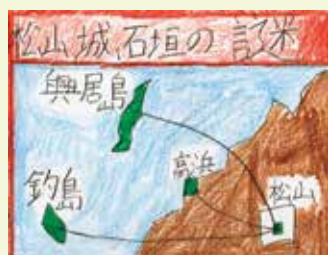
松山城の石垣は、すでに廃城となっていた湯築城や正木城(松前城)から運びこまれたといわれています。また近年の研究では、石手川上流で砕石し、川を利用して主に船で運搬したと考えられています。

このほか、江戸時代後期の修理の際には海浜部で石を採取し、宮前川を利用して持ち込まれた可能性が考えられています。

加藤嘉明

慶長7(1602)年から築城を開始し、わが国の築城史上、最長の歲月(4半世紀)を要した松山城。築城の名手ともいわれました。

松山城に入りにくいからくりがあるのは、嘉明が考えたから。頭がよく、上司だったという豊臣秀吉にも信頼されていました。



松山城の石垣の謎(堀江さん作)

身近にある歴史に 気付いてほしい

正岡子規や秋山兄弟については、小学校で勉強していたので少しは知っていましたが、今回の学習を通して、後の世に大きく影響を与えている面を知り、松山には立派な偉人がいたのだと感じました。また、自分との共通点や、プライベートな一面を知り、より親しみを感じるようになりました。

歴史は教科書の中だけでなく、私たちの身近にあるのだと実感したので、皆さんにも身近にある歴史に気付いてもらいたいと思います。



おかげさまで2巡目!

(左から)木村瑞希さん、持丸紗輝さん、中野花恋さん、堀江海斗さん、後藤光生さん、藤川将斗さん(2年)

平成28年4月に開始した中学生連載企画が2巡目に入りました。これまでの連載記事は松山市ホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。



二次元コード